

音楽の授業実践における言語能力の育成

注目!

音楽の授業

👉 **音楽のもつ非言語的な特性**を生かし、言葉への興味・関心を喚起し、その理解と表現を促す。

※音楽には「不思議な力」があり、リズムやメロディー、ハーモニーなどの要素を通じて、言語化が難しい感情や概念をも表現し、聴き手の心に響く。

→言語化が難しいのであって、言語化できないものではない。

→言語化するための支援が、授業づくりにおける手立ての工夫となる。

- ・歌唱や器楽、身体表現、音楽遊びなどの活動と児童生徒のコミュニケーションを促す活動を効果的に組み合わせ指導する。
- ・音楽を通じて、言葉で伝えあう楽しさや喜びを体験することで、言語能力をさらに高める。

非言語的アプローチは、言葉によるコミュニケーションを補完し、
あるいは、それに代わり、豊かな人間関係を築くための重要な要素である。

※音楽のもつ非言語的な特性と非言語的なアプローチはマッチする。

👉 音楽は、音の高さや強弱、言葉のリズムなど、
言語の基礎となる要素を含んでいる。

👉 言語的なアプローチは当然であるが、
音楽がもつ非言語的な特性に対して
非言語的なアプローチも言葉への理解と表現を
促す有効な手段である。



※表情、身振り・手振り、声のトーン、視線、距離感

さらには空間の使い方など、言語以外の様々な要素を使う。

※感情やニュアンスを伝えるときに、非言語的な表現を使っているのでは？

※相手の表情や声のトーンなど、非言語的な情報を読み取ったとき、
児童生徒の表情や姿勢が変わり、事物に注目を向けたとしたら...？

1 歌う活動を通じて言語能力の育む

☑ 歌詞の理解と語彙の獲得

- ・ 歌詞に出てくる単語を
実物や写真、絵カードと合わせて呈示し、
視覚と聴覚を同時に刺激することで
言葉の習得を目指す。

☑ 擬音語や擬態語の活用

- ・ 「わんわん」「キラキラ」「ふわふわ」などの
擬音語や擬態語が含まれる歌を選び、それらを
声に出して表現することで言葉のイメージを
もてるようにする。



☑物語性のある歌

- 歌詞にストーリー性のある歌を選び、歌詞の内容を図や絵でも呈示することで、歌詞の展開などを捉えるのと同時に言葉の習得、言葉と言葉の関連性を捉える。

※図や絵の呈示方法は調整



どうして
とんぼのめがねは
○○○○なの？

☑発音・発語の促進

- ゆっくりと、はっきりと発音しながら歌うよう、示範することで、児童生徒が模倣しやすくする。
- 正しい発音を促すため、鏡を見ながら口形を確認したり、教員が口形見本を示したりする。
- 同じ歌を繰り返し歌ったり、聞いたりすることで発語を習慣化し、言葉の習得を目指す。

☑表現力を高める

- 歌詞の内容に合わせて、表情や声のトーンを変える練習をすることで、感情と声の結び付きを学び、表現力を身に付ける。
- 歌詞に手話やジェスチャーを合わせることで、言葉の意味を身体表現を通じて学び、理解する。



2 リズム活動を通じて言語能力を育む

☑言葉のリズム感の習得

- ・ 名前や身近な言葉「おはよう」「ありがとう」をリズムに乗せて手拍子したり、タンバリンなどの楽器で打って表現したりすることで、言葉の音節やリズム感を体得する。
- ・ リズムパターンを「タン・タン」「タ・タ・タン」のように口ずさみながら、タンバリンなどを使って表現することで言葉の音韻意識を高める。
- ・ 好きな言葉や短い文を選び、それに合うリズムを考え、手拍子や楽器で表現する活動を通して、言葉の音の数などを理解する。



☑指示理解と応答

- ・ 教員が児童生徒の名前を呼び、児童生徒が手拍子や楽器の音などで応答する音楽的な活動を通して、相互作用と言語的なやり取りの基礎を身に付ける。

※コール&レスポンス

- ・ 「ストップ（止まる）」 「ゴー（進む）」 「大きな音」 「小さな音」などの指示と身体的な表現を組み合わせた音楽的な活動に取り組む。



3 聴く活動を通じて言語能力を育む

☑聴く力・聴覚による弁別、語彙の習得

- ・ 動物の鳴き声、乗り物の音、自然の音など、様々な音を聴き分け、その音を表す言葉を答えるなどの聴く活動を通して、聴覚によって弁別する力を高めつつ、語彙の習得を目指す。
- ・ 音の強弱や速さの変化に注目させ、「大きい」「小さい」「早い」「ゆっくり」など、感じたことと言葉とを結び付ける。

☑音楽的要素を言葉で表現する力を育む

✓児童生徒のイメージを言語化する

- ・ 聴いた音楽から連想される事柄や抱いた感情を言葉で表現する力を身に付ける。

※抽象的な概念の習得へ

- ・ 楽器の音色を聴き分け、楽器の名前を言葉で表現する。

※楽器の名前の習得と音色の識別

4 コミュニケーションを促す音楽活動

☑グループでの歌唱・演奏

- ・友達と歌ったり、楽器を演奏したりする中で、「一緒に」「順番に」「もっと大きく」など、協調や指示に関連する言葉を自然に使う機会をつくる。

☑発表活動

- ・歌や演奏を発表する場を設定し、自分の表現を他者に伝えようとする意欲や、言葉で感想を述べ合う機会をつくる。

☑音楽療法の手法を応用する

- ・言葉にメロディーを付けて歌うことで発語を促す。
- ・即興演奏を通して、児童生徒が自由に音を出し、その音（演奏）から感じたことや伝えたいことを言葉で表現する活動を設定する。



5 環境調整など

☑視覚的に分かりやすい環境

☑児童生徒一人一人に応じた支援

- ・発話が難しい、不明瞭さを補う必要がある児童生徒には、代替・補助コミュニケーションツールを活用するなどする。



※ローテクもしくはハイテクの活用

☑️ 分かりやすい言葉掛けをする

- ・ 活動を促す言葉掛けは、具体的かつ肯定的かつ端的に。

☑️ 成功体験を積み重ねる

- ・ 児童生徒が安心して言葉を使いたいと思う活動の設定と雰囲気づくりを。

